はじめに

―教育現場における課題解決に向けて―

広谷 博史（附属学校統括機構長）

教師の多忙化が叫ばれ，ブラックな職業などと揶揄されて久しいです。社会が大きく変わり，人々の価値観も変容する中で，学校は昔ながらの役割を求められることは変わらないまま，ICT，探究活動，学校安全と教育の中に盛り込まなくてはならない内容は増え続けています。教育現場では大変なことになっています。このような課題の解決に向けて，まずは授業や指導計画を適切なものにすることが必要とされていると考えます。

大阪教育大学には 3 地区のキャンパスに合計 11 校園の附属学校があり，さまざまな特徴的な教育が行っています。そこでは，新たな教育にチャレンジし，実践を可能とするために，さまざまな取り組みをしてます。その取り組みの工夫をカリキュラム・マネジメントの視点で取り上げ，一般化できないかというのが本研究に取り組むことになった動機です。

このために，本学に研究組織を立ち上げました。研究対象として 2 地区 3 校，具体的には天王寺地区の附属天王寺小学校と附属天王寺中学校，池田地区の附属池田小学校を選び，それぞれの地区に学校の実践を研究する地区研究委員会を設置し，附属学校と大学の研究者が密に連携する仕組みを作りました。そして，それら地区委員会の研究成果をまとめたものが本手引きになります。これら研究成果は，同じく研究組織の中に設けた評価委員会により検証され，その結果は各地区委員会に還元されるとともに，別冊リーフレットが作成されることになっています。研究成果が，地区委員会を通じて附属学校に届けられるというサイクルを作るとともに，本手引きを通じ社会に広く発信されればと考えています。

研究組織を含む研究全体の進行は，カリキュラム・マネジメント検討会議を設置し管理を行いました。この委員会は，本学の研究者の先生方と附属学校の管理職を中心に構成し，加えて大阪市教育委員会からも仲村顕臣主席指導主事に委員としてご参加いただきまして公立学校の現場の視点から研究推進へのご示唆を多くいただきました。あらためて感謝を申し上げたいと思います。

世の中にあふれる膨大な情報の中から，本手引きを手に取っていただきありがたく感じています。そのような現場の先生方をはじめとする教育関係者の方が，目の前のさまざまな教育課題に立ち向かう際に，本手引きが何らかのお役に立てることを切に願っております。そしてなにより，未来を創る子供たちが，真に幸福と感じることができる社会に向けての一助となることを期待しています。